

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間；平成20年3月～平成25年3月（5年1月）

1. 概況

基本計画の目標を達成する核事業のひとつである市立図書館の街なか移転事業及びまちづくりセンターが11月と12月にそれぞれオープンし、基本計画の掲載事業は順調に進んでいる。

中心市街地の状況は、都市機能の充実及び民間共同住宅の建設により街なか居住人口が増加し、市民と商店街との協働イベントにより街なかの賑わいの創出が図られている。しかしながら、東日本大震災ならびに長引く景気の低迷と公共工事の縮減など経済状況の悪化により、地域経済は鈍化している。特にデフレスパイラルによる郊外大型店の販売攻勢により、中心部の小売販売力が低下していると推測される。

中心市街地内については、空き店舗に飲食店をはじめとする新規創業やLED照明のショールームの出店が見られるなど明るい兆しが見えつつあるものの、店主の高齢化、後継者不足による廃業等の課題もあり、空き店舗数は横ばいとなっている。

商店街振興組合活性化委員会とNPO法人、商店街、市民活動団体等が、各種イベントを通して連携を図り、情報交換、協力体制など中心市街地における横の連携ならびに協力体制が構築されつつある。さらには、街なかイベントにおいて商工会議所女性会、青年会議所、農業者、短大生、高校生などが参画する機運が醸成されるなど、賑わい創出の仕組みづくりが着実に進んでいる。また、中心市街地を舞台とする「ちよっ蔵まつり」、「軽トラ市」、若手商店者が主体となり市民団体を巻き込んだ「紙袋ランタンフェスティバル」の取り組みなど各種イベントは、地域住民から高い評価を得ている。

なお、基本計画主要事業の推進状況は、掲載する24事業（ハード系5事業、ソフト系19事業）すべての事業が完了及び実施中である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
街なか居住推進	街なか居住人口	2,660人 (H18)	2,800人 (H24)	2,553人 (2,817人) (H23)	①	①
市民活動の活性化	コミュニティ施設等 利用者数	64,773人 (H18)	112,000人 (H24)	93,655人 (H23)	①	①
賑わい創出	歩行者・自転車通行量	7,008人 (H19)	10,000人 (H24)	10,044人 (H23)	①	①
	空き店舗数	38店 (H18)	30店 (H24)	35店 (H23)	②	②

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

- ① 「街なか居住の推進」については、高齢者向けバリアフリー市営住宅建設事業及び滝川市立病院改築事業、市立図書館移転事業が完了した。また、民間活力による集合住宅の建設や個人住宅の建築が着実に進んでいるとともに高齢者専用賃貸住宅の建設計画がなされている。その他の掲載事業についても計画どおり進めており、施策の効果が現われていることから目標達成は可能であると見込まれる。
- ② 「市民活動の活性化」については、まちづくりセンター整備事業が完了した。商店街活性化委員会とNPO法人ならびに市民活動団体と商店街等が着実に連携し、情報交換、協力体制が構築されてきている。また、街なかイベント等において商工会議所女性会、青年会議所、農業者、短大生、高校生などが参画するなど、賑わい創出の仕組みづくりが着実に進んでいることから、目標達成は可能であると見込まれる。
- ③ 「賑わい創出」については、商店街拠点づくり事業や賑わい再生ロード事業、図書館連携事業などの事業展開により賑わいの創出、回遊・滞留ルートの形成が出来つつある。街なか通行量については、天候等に左右されるものの市立病院改築事業の完了により増加している。市立図書館の移転、まちづくりセンター整備事業が完了したことから、今後、さらに街なかへの回遊性の向上が図られることから目標達成は可能であると見込まれる。

空き店舗数については、計画掲載事業である情報発信事業やチャレンジショップ事業により新規出店は見込めるものの、長引く地域経済の低迷及び消費者ニーズの多様化、購買力の低下さらには、商業経営者の高齢化、後継者不足により閉店を余儀なくされる状況であるため、目標達成が難しいことから、新たな取り組みを構築する必要がある。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

特になし

5. 今後の対策

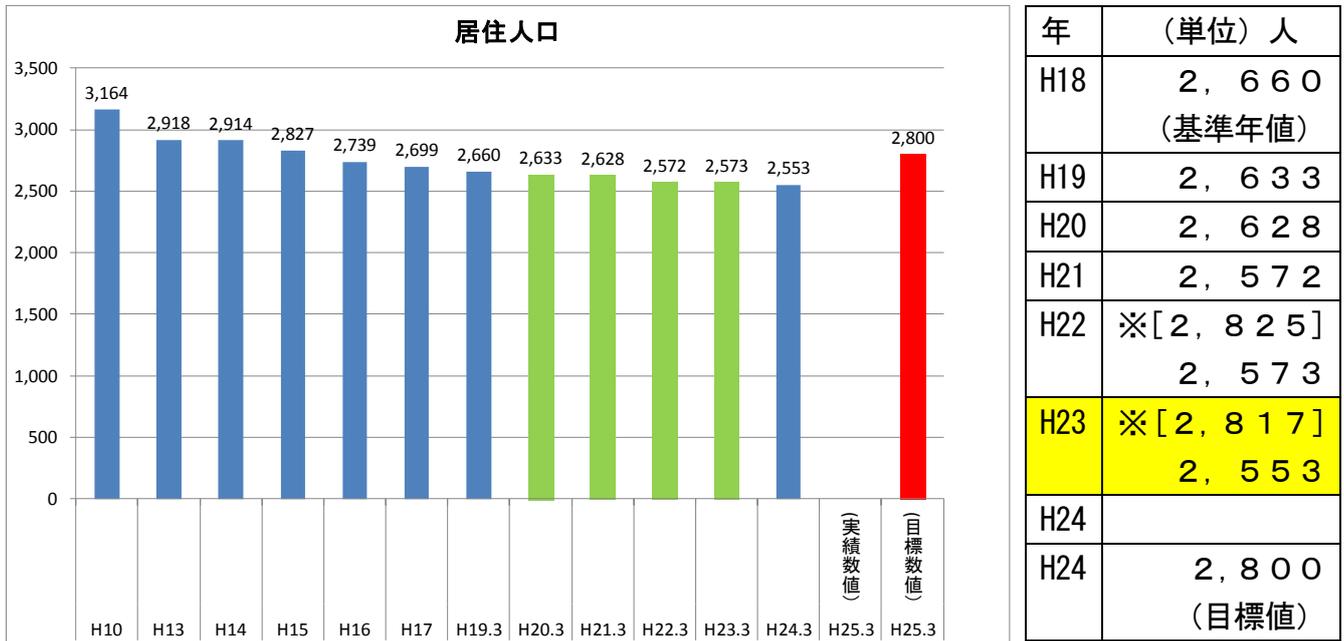
- ・賑わいの創出をはじめとする基本計画事業の取り組みにより、成果が着実に上がっていることから、引き続き、掲載事業を積極的に推進するとともに事業のブラッシュアップを図ることにより設定した目標値を達成したい。
- ・街なか居住については、居住実態としては目標値を達成したものの、引き続き情報発信事業や共同住宅建設補助のPRを行い居住人口の増加を目指す。
- ・コミュニティ施設の利用者数については、拠点施設を障がい者団体と連携を図り、くつろぎ処「高齢者くつろぎ処まちぷら」として機能の充実を図るとともに、「まちづくりセンター」の集客力の向上を目指す。
- ・街なか通行量については、市立病院の開院、図書館の街なか移転、まちづくりセンターの整備及び新たな集客施設と既存のコミュニティ施設との連携強化、賑わい再生ロード事業の継続による回遊・滞留効果により賑わいの創出を図る。
- ・空き店舗対策については、情報発信事業やチャレンジショップ事業、家賃助成事業を実施しているが、新規出店者が少ないことから、目標達成は困難が予想される。対策としては、空き店舗情報の積極的なPRやチャレンジショップの育成及び独立支援や事業承継、また新規出店者の阻害となっているアーケード対策に向けた施策に取り組む。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

目標「住みよい生活ステージ形成によるまちなか居住の推進」

「街なか居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P59 参照

1. 調査結果の推移



調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※H22年度以降住民基本台帳登録人口+集合住宅実態調査の値を合算し[]で表示

調査月；平成24年3月末時点

調査主体；滝川市

調査対象；中心市街地内居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために行政の役割である公営住宅を先導的役割として、中層建て20戸で冬期間にも快適な生活が享受できる高齢者向けバリアフリー住宅を建設する。
事業効果又は進捗状況	平成22年9月24日に完成し、既に20戸42人が入居済である。

②. 新設高齢者向けマンション建設事業（事業主体名）民間事業者

事業完了時期	【済】平成19年度
事業概要	民間事業者により、暮らしやすさと心地良い空間をもつ4階建て34室の高齢者向け多機能マンションを建設する。
事業効果又は進捗状況	平成19年11月2日に完成し、既に34戸34人が入居済である。

③. 街なか居住推進補助事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために補助制度の運用により、街なかでの居住者を増加させる事業
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、民間投資の意欲向上を図るため、補助制度の要件緩和（重点地区の

進捗状況	撤廃)を行い、利用促進を図った。市内金融機関、建設業者などから問い合わせが3件、相談2件あったものの申請はなかった。制度の要件緩和により、建設会社より民間共同住宅の事業化に向けて具体的な相談が来ていることから、次年度において事業の取り組みが見込める状況にあり一定の成果が見込まれる。
------	---

④. 街なか居住推進インフォメーション事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	市商工観光課において街なか居住に関するワンストップサービス総合窓口を開設する事業。
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、引き続き不動産会社、商店街振興組合、建設業者などと仕組みや情報収集の整理を行い、情報発信に取り組んでいる。

⑤. 滝川市立病院改築事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	中心市街地エリアに位置する滝川市立病院は、主要部分が築後40年以上経過し、狭隘化、老朽化及び耐震診断の結果、目標耐震性能を満たしていないことから、現在地で改築をする。
事業効果又は進捗状況	平成23年3月16日に新病院を開院し、外構工事が11月30日で完了し、すべての工事が完了した。商店街ポイントカード事業と連携を図り、プリペイドカードでの医療費が支払い可能となったことから商店街への回遊性の向上が高まった。

⑥. 図書館移転事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	現図書館は市街地のはずれに位置し、老朽化により建て替えが必要になったが、中心市街地の活性化のために現在地ではなく、市役所の2階及び地下1階の一部を有効活用する形で移転する。
事業効果又は進捗状況	図書館移転工事は、10月11日に工事を完了し、11月12日開館した。図書館と商店街振興組合が、商店街への回遊向上のため広報活動事業、新刊図書案内サービスなど連携事業を組み立てて実施しており、移転前の2.5倍の来館者となっていることから、街なかへの回遊が期待できる。

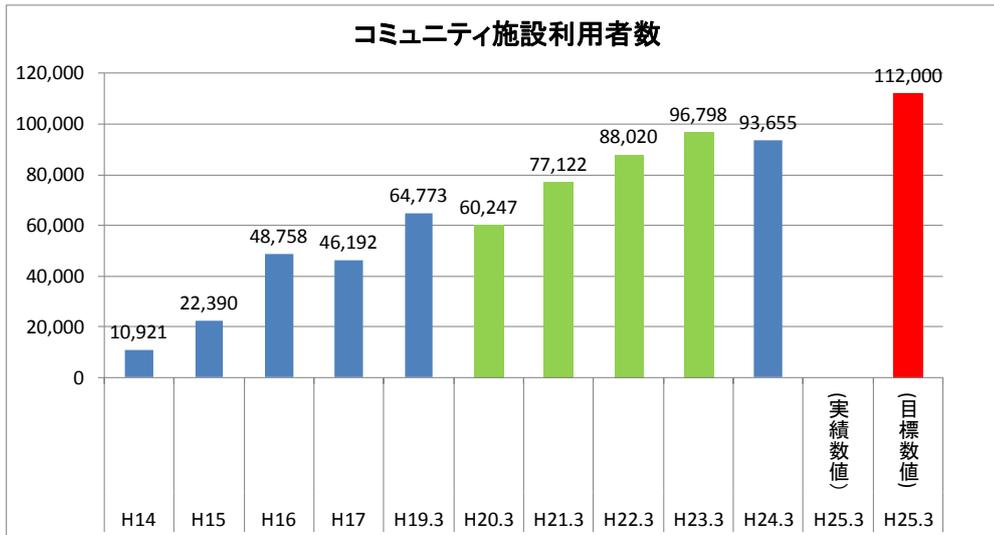
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・平成20年度以降、エリア内において集合住宅が建設されているにもかかわらず居住人口が比例していないことから、集合住宅実態調査を実施したところ住民基本台帳に反映されていない居住者がいることが判明し、中心市街地地域の住民基本台帳登録人口に実態調査数値を加えた値で整理している。
- ・街なか居住人口は、平成19年度から平成22年度に市営住宅事業(1棟20戸)、民間活力による集合住宅建設(1棟22戸×2棟、16戸×1棟、12戸×1棟、2棟8戸×4棟、6戸×1棟、4戸×1棟)が建設された。また、老人ホーム(1棟56戸)、高齢者向け共同住宅(1棟35戸×1)、小規模多機能居宅介護併設の高齢者専用賃貸住宅等(1棟38室)が建設され満床状況になっている。
- ・今後も、民間投資の意欲向上のため街なか居住推進補助事業の推進、街なか居住推進インフォメーション事業の充実を図るとともに、市立病院改築事業、図書館移転事業も完了し予定通り進んでいることから、目標達成は可能であると見込まれる。

目標「商店街協働コミュニティ形成による市民活動の活性化を図る」

「コミュニティ施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P60～P65 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H18	64,773 (基準年値)
H19	60,247
H20	77,122
H21	88,020
H22	96,798
H23	93,655
H24	
H24	112,000 (目標値)

※調査方法；各施設年度利用者数調査

※調査月；平成24年3月末時点調査、4月取りまとめ

※調査主体；滝川市

※調査対象；くつろぎ処、チャレンジコミュニティカフェ、たきかわホール、街なか地域交流施設「くるる」暮らしのショールーム、まちづくりセンター6施設

※まちづくりセンターは12月17日オープンのため、今年度集計に含まず

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	<p>空き店舗を活用した2拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <p>●調査対象（2拠点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くつろぎ処 (中心市街地商店街の活動拠点として各種イベント等での活用、地元農産物を活用した食事を提供するレストランなどを兼ね備えた拠点。) ・チャレンジコミュニティカフェ (若者向けのカフェとして設置。若い世代を中心に、短大生、高校生の力を借りながら、街なかの賑わいを取り戻すための拠点。)
事業効果又は進捗状況	<p>くつろぎ処及びチャレンジカフェともにそれぞれが特徴を生かした事業を展開し集客力向上に取り組んでいる。平成24年3月末の利用者数は、くつろぎ処が14,457人、チャレンジコミュニティカフェが13,430人となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くつろぎ処は、高齢者のふれあいの場として商店街の情報サービスならびに地域公共交通事業のバス待合所として利用されている。また、中心市街地の各種イベントの活動拠点として、賑わいの創出に寄与している。 ・チャレンジコミュニティカフェは、年間を通して多くのミニイベント（J2コンサドーレ札幌応援、プロ野球北海道日本ハム応援、地域イベントのキックオフパーティな

ど)を開催するとともに地産地消を推進する店に認定されたことにより、更なるコミュニティづくり及び中心市街地における賑わいづくりに大きく寄与している。

②. まちづくりセンター整備事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	まちづくりセンターは、まちづくり推進のために積極的に事業を取り組む町内会や市民活動団体、NPO法人等の連携のもとに中心市街地をはじめとする地域の交流及びコミュニティ活動、活性化など様々な事業に取り組む市民活動の拠点であるとともに中心市街地において誰でも気軽に集い交流を深めるための拠点となる魅力ある施設となることを目指す。
事業効果又は進捗状況	まちづくりセンターは、12月12日に工事を完了し、12月17日オープンした。市民の交流及びコミュニティ活動の促進を図る拠点として地域住民の相互交流及びコミュニティ活動などの支援、まちづくりに関する情報発信を行うとともに市民がゆったりとくつろげて気軽に交流を深めることのできる憩いの場としての交流空間づくりを行っている。また、街なかの賑わいの創出にも寄与できる紙袋ランタンフェスティバル事業など商店街と連携し、事業を展開している。平成24年3月末現在の利用者数は、5,293人となっている。

③. NPOたきかわホール事業 (事業主体名) NPO法人空知文化工房

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	滝川市が所有する「たきかわホール」を文化活動関係者のみならず学生や主婦層、中高年齢者層にも文化活動等に対する関心をもってもらう事業を展開することにより、市民交流活動の活発化と商店街の賑わい創出を図る事業。
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、自主事業として「市民劇の公演」、「映画上映」、「音楽イベントの開催」をはじめ市民文化団体の発表など様々な取り組みを行うとともに文化活動団体と連携し、特徴を生かした事業を展開し、集客力向上を図る取り組みを行っている。平成24年3月末現在、利用者数は13,187人と減少しているため、平成24年度は、ホールの更なる活用向上に向け、自主事業の展開及びホームページを活用し情報発信を行い、利用者増に努力する。

④. 街なか地域文化交流広場く・る・る (事業主体名) NPO法人空知文化工房

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	駅前ひろば「く・る・る」は、市民のコミュニティ施設として、駅前再開発ビルにおいて事業展開している。施設には、スタジオや会議室が設置され、各サークルや文化団体など市民に活動の場を提供しており、ビーズアクセサリやパッチワーク等の手づくり作品などの委託販売コーナーや来街者の憩いの場が設けられている。自主的なイベントを企画し、商店街をはじめ高校生や短大生もボランティアとして参加し賑わいを創出するとともに多くの市民に利用されている。
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、自主事業として「夏まつり、ながいも祭り、く・る・る de レトロ、手づくりフェスタ」など多種多様な事業を実施し、イベントを通して幅広いコミュニティを形成している。また、地域実情の特性を生かした賑わいづくりや集客力向上を図る

ため、昨年好評を得たカフェサービスを引き続き取り組んでいる。平成24年3月末現在、44,449人であり、今後、さらなるPRに努める。

⑤. 暮らしのショールーム運営事業 (事業主体名) 滝川消費者協会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	300人を超える会員の拠点施設として、恒常的な活動により日常の賑わいを創出するとともに、イベントの開催や消費者相談、休憩コーナー（コーヒー、お汁粉等の提供サービス）を通じて賑わいとコミュニティ形成に寄与している事業である。
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、自主事業として「消費者相談、リフォーム教室、手づくり教室」を基本に、消費者まつりやイベントの開催、さらには街なかイベントにも積極的に参画し、「りやかあさん」など特徴を生かした事業を展開するなど、コミュニティの醸成や集客力向上の取り組みを行っている。平成24年3月末現在、利用者は8,132人と減少していることから、積極的な情報発信に努め、集客力の向上を図る。

⑥. 中心市街地活性化イベント事業 (事業主体名) 滝川市中心市街地活性化協議会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	商店街の賑わい再生を目指した市民生活・活動のステージとして中心市街地を活用し、市民活動の活性化を図る事業
事業効果又は進捗状況	平成23年度は、昨年に引き続き「日ハム応援招待フェア」や「街なか ちよつ蔵祭」「ベルロード 好きラッチ」「軽トラ市」、冬の恒例行事となった紙袋ランタンフェスティバルなど500人～5,000人規模のイベントを開催し、多くの市民の来街により賑わいが生まれ商店街の活性化が図られた。また、商業者・農業者と消費者が連携して取り組んだ地元農産物を活用した「スイーツアクションプログラム」プロジェクトや高校生が協力するミニイベントなどにより一定の成果が見られる。

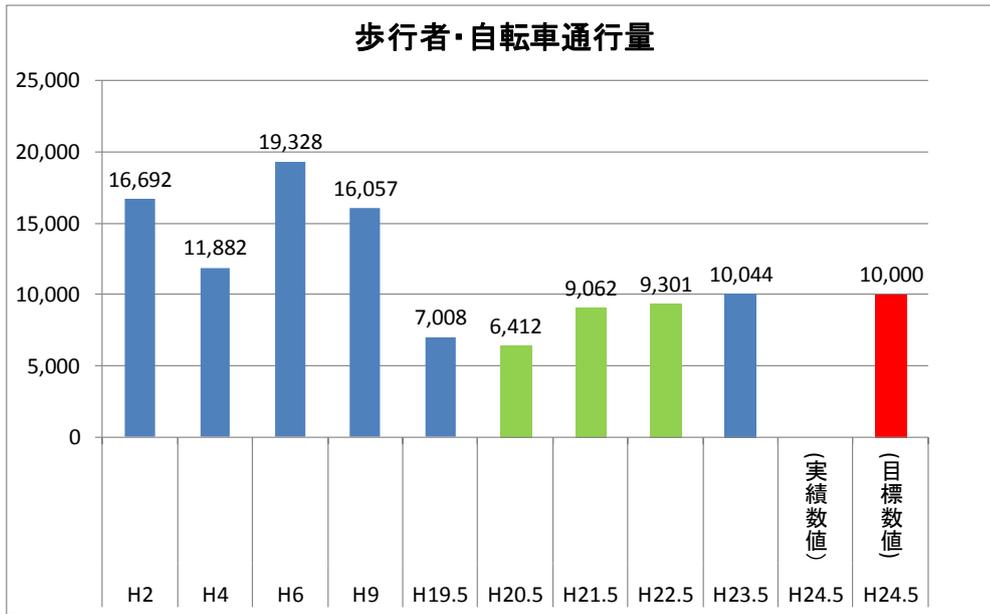
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・コミュニティ施設利用者数は、基本計画上6施設としている。
- ・既存の3施設（たきかわホール、く・る・る、暮らしのショールーム）は、自主事業やソフト事業の充実、市民参加型イベントの開催により利用向上に努めている。
- ・コミュニティ施設の2施設（くつろぎ処、コミュニティカフェ）については、それぞれの特徴を生かし、数多くのミニイベントや高齢者ふれあいサロン機能を付加するなど利用者の拡大に努めている。
- ・まちづくりセンターは、12月17日にオープンし、まちづくり推進のために積極的に事業に取り組む町内会や市民活動団体、NPO法人等の連携のもとに中心市街地をはじめとする地域の交流及びコミュニティ活動、活性化など様々な事業に取り組む市民活動の拠点として活動支援に取り組んでいる。
- ・中心市街地の賑わい再生のためには、各々の組織と市民、商店街との連携・協働が最も重要なポイントである。その実現に向けて商店街振興組合活性化委員会が中心となり、各種イベントを通して団体同士の横のつながりとコミュニケーションが図られてきていることから、引き続き事業を継続実施することにより、目標達成は可能であると見込まれる。

目標「回遊・滞留ルートを形成し、街なかに賑わいを創出」

「街なか通行量」※目標設定の考え方基本計画 P66～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H19	7,008 (基準年値)
H20	6,412
H21	9,062
H22	9,301
H23	10,044
H24	
H24	10,000 (目標値)

※調査方法；歩行者及び自転車通行量調査（毎年度5月と10月に実施）

※調査月；平成23年5月実施、6月取りまとめ

※調査主体；滝川市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日5地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 滝川市立病院改築事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

②. 図書館移転事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

③. 居住人口の増加

- ・ 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進補助事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進インフォメーション事業 【再掲】 P 4 参照

③. まちづくりセンター整備事業 【再掲】 P 6 参照

④. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	中心市街地を活性化し賑わいを再生するためには、歩きたくなる・行ってみたいくなる魅力的な歩行空間と市街地環境が大切であることから、商店街協働コミュニティ形成にかかる事業と連携し、商店街活性化のための空間デザインとコミュニケーションデザインを行い具体的な実証実験を行う。
事業効果又は進捗状況	実証実験を踏まえ、3つの装置である「挨拶の装置」「迎客の装置」「集客の装置」づくりを実践した。 ①「挨拶」の装置づくりは、滝川の花である「コスモス」を中心に商店街のフラワーストリート事業と合わせて、滝川らしい季節感にあった色とりどりの花で来街者をもてなした。

②「迎客」の装置づくりは、活性化拠点や中心市街地のイベントに、木製のオープンカフェセットを休憩施設として設置し、中心市街地のくつろぎ空間を演出した。

③「集客」の装置づくりは、JR滝川駅広場から商店街のメインストリート、公共施設に「みんなのあかりものがたり」をテーマとした1万個の紙袋ランタンを市民参加により設置し、同日開催した「たきかわ冬まつり」や「商店街イルミネーション事業」と連携を図り、5,000人の来街者が市内外から集まり中心市街地の賑わいに繋がった。

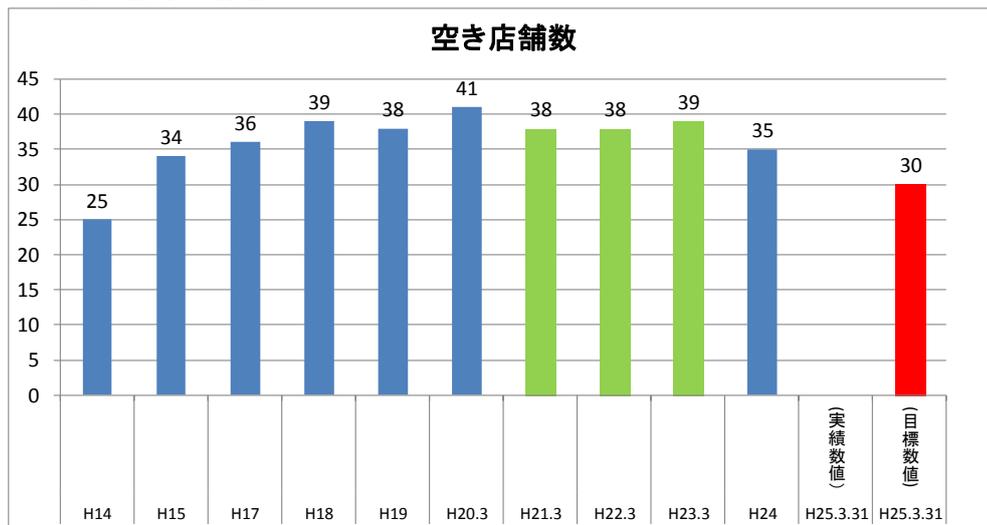
(市民参加型：一般市民、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、NPO団体、商店街、町内会、消費者協会、建築士会、商工会議所、行政)

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・街なか通行量は、市営住宅建設事業、民間集合住宅の建設、市立病院のリニューアルオープンなどにより増加しており、図書館の街なか移転、まちづくりセンターの開館によりコミュニティ6施設がすべてオープンしたことにより、商店街への回遊が見込まれる。
- ・子どもたちに街を知ってもらい取り組みとして商店街・市民の有志が取り組んでいる「街づくり体感トレーニングカードゲーム(マチろ〜)」は、積極的な普及啓発活動ならびにマチろ〜祭を開催するとともに小学校3年、4年生の社会科教材になり、子どもたちからの反響やマスコミにも取り上げられ、今後も親子を含めた街なかの回遊が見込まれる。
- ・コミュニティ施設を繋ぐ賑わい再生ロード事業も一定の成果が見られるとともに、昨年度「滝川市バリアフリー構想(駅前地区)」を策定し駅舎・駅前広場からベルロード、市役所、市立病院までのバリアフリー化に取り組むことから、回遊性の向上が図られるため、目標達成は可能であると見込まれる。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 店舗
H18	38 (基準年値)
H19	41
H20	38
H21	38
H22	39
H23	35
H24	
H24	30 (目標値)

※調査方法；空き店舗実態調査

※調査月；平成24年3月

※調査主体；滝川市

※調査対象；中心市街地4商店街振興組合の空き店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	<p>空き店舗を活用した拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3拠点 ①くつろぎ処 ②チャレンジコミュニティカフェ ③チャレンジショップ
事業効果又は進捗状況	<p>滝川市商店街振興組合連合会が中心となり、各商店街において家主と連携し空き店舗情報発信事業のデータ収集を行い、ホームページにおいてPRを図っており、空き店舗の問い合わせや中心市街地活性化協議会の空き店舗補助事業（チャレンジャー育成基金）を実施している。また、チャレンジショップ事業については、現在、3店のチャレンジャーが入店し、独立を目指し事業を展開しているとともに、引き続き新規チャレンジャーを募集するなど育成支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成20年度～3拠点施設設置により、空き店舗（3店減） ○平成21年度～チャレンジショップから独立開業（1店） ○平成21年度～空き店舗情報発信事業（5店） ○平成22年度～チャレンジショップから独立開業（3店） ○平成22年度～空き店舗情報発信事業（4店） ○平成23年度～空き店舗情報発信事業（4店）

②. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 8 参照

③. まちづくりセンター整備事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 6 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・空き店舗数は、基本計画掲載事業がほぼ計画通りに実施され、各商店街においても家主と連携し積極的に空き店舗情報発信事業を行っていることから4店が入居し、新規出店については一定の成果をあげている。
- ・聞き取り調査では、東日本大震災以降も長引く景気の低迷や購買力の低下、さらには商業者の高齢化、後継者不足により閉店を余儀なくされる状況にもあることから、現時点においては数値目標である「空き店舗の減少」は、目標達成が難しいと見込まれる。
- ・今後の対策としては、中心市街地活性化協議会が創設したチャレンジャー育成基金（空き店舗対策補助金）の更なる利用促進を図るとともに、チャレンジショップのチャレンジャー育成を推進し独立を目指す。また、アーケード等共同環境施設等の負担金軽減策及び空き店舗活用事業、事業承継などの推進により、目標の達成に向け努力する。